

針

の

筵

R18





指切りげんまん



針千本
飲めます



嘘ついたら



指切った!

どうしたの
急に

ナナリーに
教えてもらったんだ
日本の約束の仕方だろ？

ナナリーと
何を約束したの？

ナナリーの
目が治るまでには
優しい世界になるように

彼女にだけは
嘘はつかない



お前たちのためなら
針くらい何千本でも
飲んでやる



僕も
約束して
もらおうかな

ルルーシュは
嘘つきだから

お安い御用だ



ハハハ

もー!

それって
嘘つくって
ことじゃないか



それで



うーん…

そうだな…

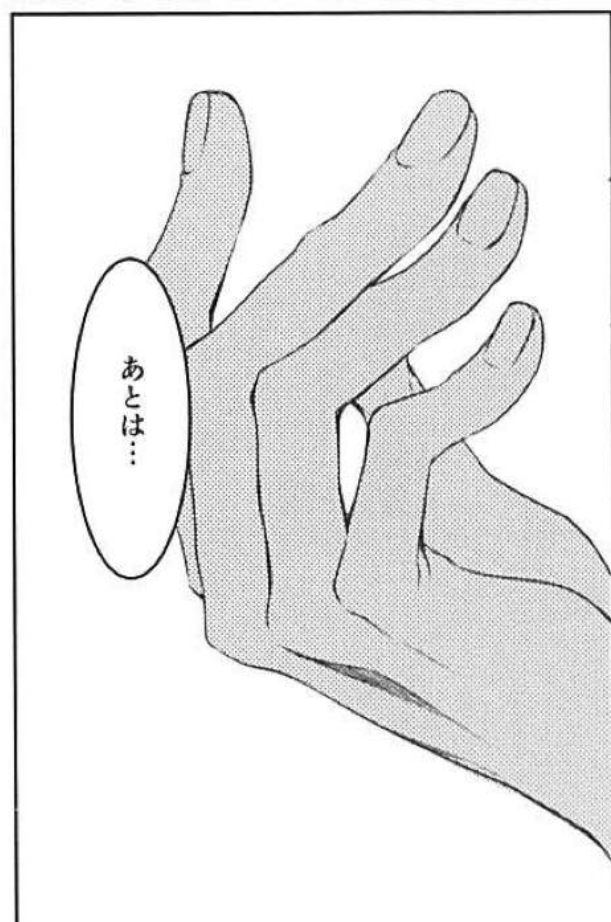


僕はなにを
約束すればいい？



いざ言われると
なかなか
思い浮かばないな

僕に
してほしい
こととか



あとは…



次の定期テストで
全科目満点とか

毎日
一緒に夕飯を
取りたいとか

運動神経を
半分くれとか…

実現できそうな
ものがないな…

なんだか
怖いな

もちろん
約束するけど
なにもないことを
祈るよ

なにがあっても
「友達」で
いてほしいな

それは
よかった

ナニ
カモモモモモ

一編の
「エール」
「アム」

あみ
がメカ?

「アム」
大丈夫!!!

おやすみ
スザク

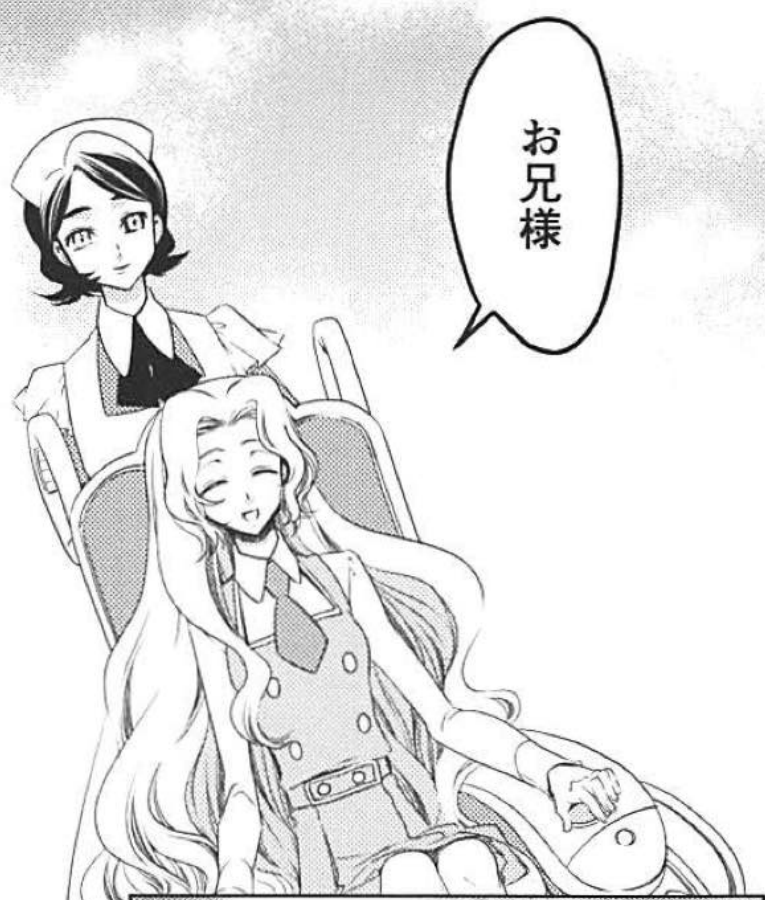
おやすみ
ルルーシュ



8

それは





お兄様



ナナリー！



まるで
天から降れた
最初のひとしずくの
ようだった



ははは
そうだといいな

まあ!

それじゃあ
スザクさんには
毎日ごはんに
来ていただかないと



今日は
早いですね

ああ
今日はスザクが
一緒に夕飯を食べていく
日だからな



ルルーシュって
そんなにいつも
遅いの?

……



ルルーシュ



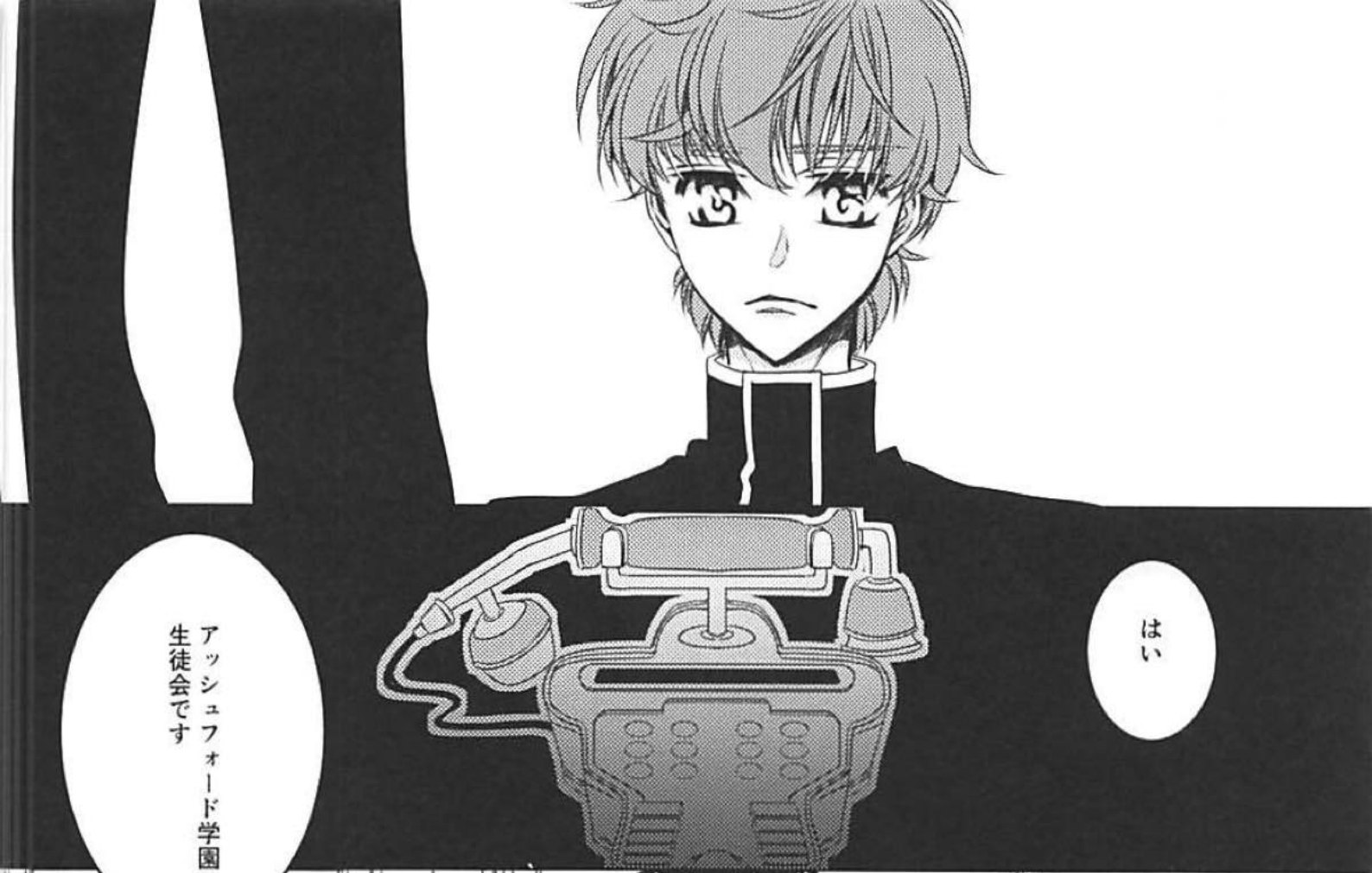
ごめんごめん
もっと早く
帰るようにするよ



朝帰りも
珍しくないですよ!

スザクさんからも
言ってください!





はい

アッシュフォード学園
生徒会です



そっち

なにか
変わったことは
ないか

あるよ

えっ



君が
いない



ちゃんと
学生やりなよ
学生やりなよ



こんなに会えないんじゃ
なんのたぐい
同じ
これじゃあ
まるで君が
ゼロだといっている
ようじゃないか

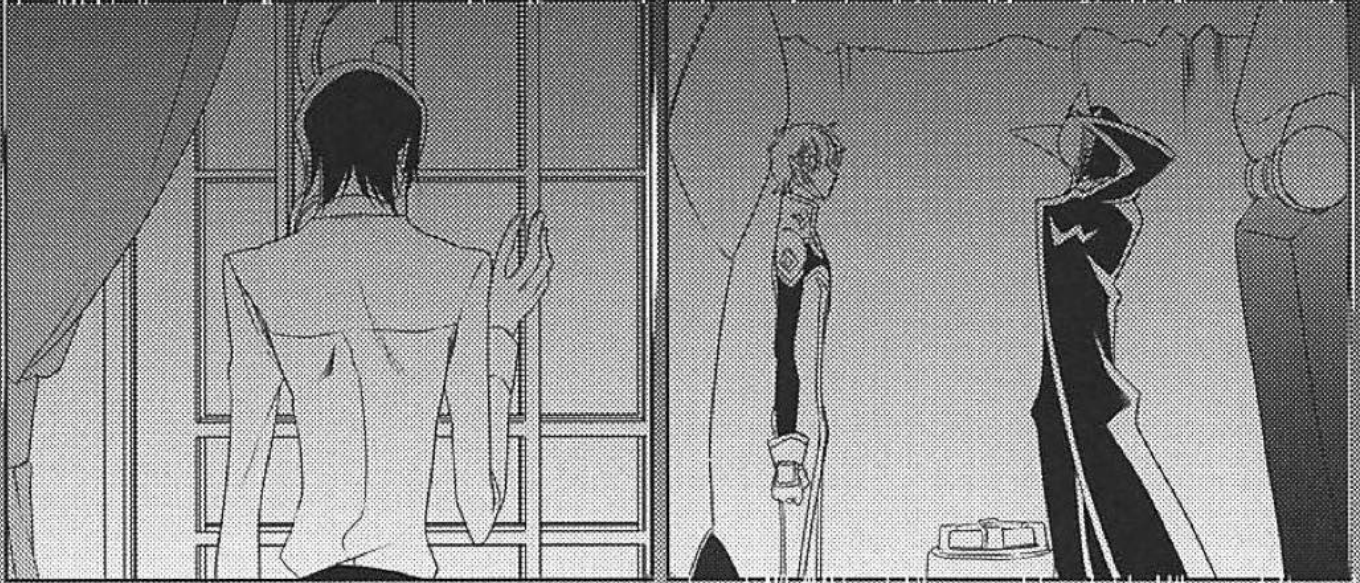


ブリタニアを

ぶっ壊す

それからも
「雨」は
激しさを増すばかり

足元は
水たまりで



乾く
心配すらない

行政特区
「日本

ユーフェミア様
やはりこの男と
二人きりになるのは
危険です

せめて
自分だけでも…


大丈夫です

わたしを
信じてください



教えて
あげようか

ユフィ
どうして君が
あんなことを…



はじめまして
枢木スザク



僕の名前は
V.V.



戻ったら
話したいことがある

大事な



スザク

大切な
話だ



信じたくは

なかったよ



この間のこと

大切な話があるって



着替える
目障りだ



もう

いいんだ



なんて
あつけない

一皮剥いて
しまえば

ただの
ルルーシュだ

ずるいな



「ん...」



君のまま
ここまで
堕ちてきては
くれないから

僕はまた
言い訳を
しなけれ
ばいけな
くなる



「ん...」

それなら
せめて





スザク…







バカだな
こんなに
傷だらけに
なって

全部
君の罪の
結果だ



だから
僕が罰を与えよう

……どう
か

まっとうな
雨に濡れていてほしい

All night the sound had
come back again,
and again falls
this quiet, persistent rain.

What am I to myself
that must be remembered,
insisted upon
so often? Is it

that never the ease,
even the hardness,
of rain falling
will have for me

something other than this,
something not so insistent--
am I to be locked in this
final uneasiness.

Love, if you love me,
lie next to me.
Be for me, like rain,
the getting out

of the tiredness, the fatuousness, the semi-
lust of intentional indifference.

Be wet
with a decent happiness.

The Rain

Robert Creeley

